



訪問看護新聞 10月号 グレース訪問看護ステーション 城南

季節の変わり目、寒暖差などで自律神経障害や頭痛・関節痛の増強など体調を崩しやすい時期でもあります。そのため漢方を内服されている方も少ないと思います。さて、今回はそんな漢方をいつまで飲まなきゃならないのか、、、

⇒漢方の止め時は使用される目的によって異なります



・**症状の重い急性期**: 症状が改善すれば内服を中止できるが、体に問題が残っている所見があれば種類を変更し内服を継続する場合もある

・**症状が落ち着いている慢性期**: 年単位で治療が必要な場合もあるが、ポリファーマシー（多くの薬を服用することにより副作用などの有害事象を起こすこと）の観点から減量する場合もある

* 種類によっては急に中止するより徐々に減量、または少量を継続することもある

* 人によっては、最初は甘く感じたがだんだん辛くなってきた！などの味覚の変化も減量のサインになる事も。。

かかりつけの医師とよく相談しながら、お薬と良いお付き合いをしてください



グレースは皆様をご自宅で穏やかに過ごせますよう真心こめて全力で支えます